

李春喜先生のご退職に寄せて

今井裕之

李春喜先生が関西大学で初めて教壇に立たれたのは1996年のことでした。最初は文学部の非常勤講師として勤務され、2年後に文学部専任講師として奉職されました。それ以来、外国語教育研究機構、外国語学部を経て現在まで合わせて30年間の長きに渡って、ご自身の母校でもある関西大学での教育を担われ、本年度末をもってご退職されることになりました。この度、関西大学名誉教授の称号が授与され、今後も関西大学の一員としてのご縁は続くとはいうものの、ご退職されるに際し、深い寂寥の念を禁じ得ません。李先生のこれまでのご功績に心からの敬意と感謝を表したいと思います。

李先生は、作家 Henry James の作品の翻訳者として知られるほか通してこそわかる表現の深さを、ご研究と教育を通して伝えてこられた先生だと私は思っています。ご自身の卓越した英語力を背景に、英日翻訳を通して培われた深い洞察に基づく最終講義でのお話は、学生や同僚だけでなく、関大職員や卒業生、先生と同世代の校友や研究仲間、さらにはご家族やご近所のご友人たちに至るまで、会場を一杯に満たした参加者たち全員が「言語って本当に面白い！」と言語の理解を深める内容でいっぱいでした。

大学運営の面でも、関西大学協議会委員を現在お務めのほか、10年以上に渡って英語の入試作題委員や主管の重積を果たされたほか、高大連携の面でも、併設校や関西圏の高等学校での出張講義や、英語スピーチやディベートコンテストの審査なども精力的に務められました。教養外国語科目の担任者が急遽不足する度に真っ先に追加担当を申し出てくださいだったのも李先生でした。また、私が赴任するより前のことで、竹内先生に伺った話ですが、米国留学中の外国語学部生が現地で重病を患った際に、ご父母に代わって急遽渡米され、緊急帰国に同伴されたこともありました。

もっといろいろ李先生とご相談できればよかったという思いが残るあまり、私には先生に感謝を伝える言葉がうまく表現できず苦しい思いをしていました。そんな時に、先生の最終講義の最後に私が代読させていただいた、李先生宛の、米国のご友人からのメッセージの一節が、強く印象に残り、今も心に残っています。正確な引用が叶わず、日本語の意識で恐縮ですが、紹介させていただきます。

関西大学は李教授をご退職により失うことになるが、一方でアメリカ文学翻訳界において李教授が今後さらにご活躍されることはこの上ない喜びである。

李先生の今後のご活躍を心よりお祈りします。
関西大学のことをこれからもお見守りください。